

瀬戸内市立瀬戸内市民病院だより

さんさん広場

第126号

《編集・発行》

瀬戸内市民病院広報委員会

瀬戸内市邑久町山田庄 845-1

TEL (0869) 22-1234

FAX (0869) 22-3296

URL <http://www.city.setouchi.lg.jp>



《理念》 市民に安らぎと幸せを届ける病院を目指します。



「絶景：操山の三疊岩上から岡山市内を望む」 2～3年前から、休日に時間があれば山歩きをしています。頂上に登り切ったという達成感、心地よい疲労感、そして何より山の上から見下ろす景色は絶景です。この写真は操山の三疊岩上から見下ろした岡山市内の風景です。操山には、この他にも沢山の探索スポットがあります。一度訪ねてみてはいかがでしょうか。(北病棟看護師長 澤岨通代)

目次

□ 写真「絶景：操山の三疊岩上から岡山市内を望む」	…2	□ 西病棟 回りハカフェあるばむ	…6
□ 特集「病院機能評価（3rdG:Ver.2.0）認定」	…3	□ パワハラ研修報告-リスペクトしあえる 職場へ-	…6,7
□ 新任ご挨拶「看護の心とコミュニケーションを大切に」	…3	□ シリーズ眼科の検査（4）	…7
□ 地域医療連携室だより「連携の大切さを忘れずに」	…4,5	□ 総合案内を飾る季節の花（晩夏編）	…7
□ 特集「転倒にご用心」-転倒の起こりやすい箇所は-		□ 職員紹介コーナー『庭』	…8
		□ 漫筆「見たり・言ったり・聞いたり」(11)	…8
		□ 編集委員のちょっと一服~オリーブの木の 下で~	…8

特集 「病院機能評価 (3rdG : Ver.2.0) 認定」

「病院機能評価」とは、病院の医療の質向上に対する努力に関し、第三者機関である公益財団法人日本医療機能評価機構から客観的評価を受け、その評価結果が一定の水準以上の病院について認定するという制度で、認定期間は5年間とされています。当院は、機能種別「一般病院」で平成24年3月2日最初の認定を受け、5年後の更新審査となる同29年10月受審(平成30年2月認定更新)から副機能として、機能種別「リハビリテーション病院」としても併せ認定を受けております。

審査は書面審査と訪問審査に分かれ、病院機能評価のメインイベントというべき訪問審査の項目は、「一般病院」においては『患者中心の医療の推進』など4つの領域・88の審査項目、「リハビリテーション病院」においては『良質な医療の実践1』の領域・22の審査項目が当院のクリアすべき課題でした。日程は、訪問審査の3か月前から書面による現況調査(施設基本票、診療機能評価票、部門別調査票、経営調査票、施設基準の状況)及び関係病院資料の提出、並びに自己評価調査票の提出が求められました。

病院機能評価受審準備室は受審日程に沿って全体調整する立場から令和3年8月に組織されました。具体的な業務は①受審スケジュール作成と管理、②院内情報伝達(発信)、③書面審査各調査票等の作成、④各領域・中項目の責任者等の配置、⑤訪問審査当日の対応でした。

準備室は、院長を室長とし各職場責任者等を委員として配置するなど職員一丸体制とし、具体的な準備室業務は別途「準備室事務局」を置いて対応。写真は同事務局のメンバーであるが、前回同様準備室事務局長に任じられた小職が全体調整を担当、施設基本票・経営調査票を野口参事(現病院事務局長)が担当、診療機能評価票・施設基準の状況を久山主査が担当、部

門別調査票を正岡主査が担当、事務局長業務補佐員に丹鍬事務員が発令され、合計5名が全工程においてタスクフォースとしての機能を果たしました。しかし、何よりも各領域の中項目(審査項目)の責任者や担当者として割り当てられ、業務の改善に努め、サーベイヤーの質問に適切に対応した準備室全構成メンバーの断絶の努力なしに認定更新は成し得なかつたものと考えています。

折から、全国に新型コロナウイルス感染症のまん延が見られ、訪問審査が当初予定の1月18日(火)・19日(水)から4月20日(水)・21日(木)に変更されました。そのため、いっとき緊張がほどけ再度の引き締めが必要となったことなど、種々の状況を経て審査が行われました。結果的には7月8日付で改善事項なく一発認定を果たすことができました。次回は5

年後に受審します。これまでの受審経験の中で得た多くの知見を生かし、更に改善努力を重ね、地域の皆様、当院をご利用なさる方々、職員に満足と誇りが持てるよう、職員一同同じ目標に向けて努力してまいります。

(病院機能評価受審準備室事務局長(経営企画室次長) 馬場洋一)



受審準備室事務局メンバー (左から)

正岡

野口

久山

丹鍬

馬場

新任ご挨拶

「看護の心とコミュニケーションを大切に」



副看護局長
片山 園子

9月1日付で副看護局長を拝命しました。片山園子と申します。これまで病棟師長・外来師長を歴任する中で、多くの皆様のご理解ご指導を賜り感謝いたしております。

私は看護師になって早35年。当院にお世話になって11年が経過しました。看護師をしていく中で、時に辛いことも嫌になるときもありません。その辛さを乗り越えたとき、やめられない魅力と楽しさが看護にはあります。看護技術だけではなく、患者さんの気持ちに寄り添える「看護の心」を看護局の皆さんと一緒に実感していけたらと考えています。

また、看護師は、患者さんの人生の様々なステージに立ち会う仕事ですので、看護師一人ひとりの人生も大切にしたいと考えています。看護師、他職種とのコミュニケーションを大切にしながら、安心して働ける職場環境を作っていけたらと思います。

これからも皆様と共に病院の理念『市民に安らぎと幸せを届ける病院を目指します。』を念頭に、人間性を磨き、自身もより成長できたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室だより

「連携の大切さを忘れずに」

瀬戸内市民病院は、平成28年（2016年）10月、それまでの古い暗いイメージを一新するべく、瀬戸内ならではの陽光を思わせる明るい病院そして耐震構造を兼ね備えた安心かつ安全な病院へと、再生されました。

一方、医療のあり方としても、疾病構造の変化など医療を取り巻く状況の変化により、一医療機関による自己完結型医療から、地域の医療機関と連携しながら、患者さんやご家族が安心して住み慣れた地域で暮らすことができるように支えて行く医療が望まれるようになってきました。こうした考えを実現するものとして、「地域包括ケアシステム」があります。これは、「住まい」、「生活支援」、「医療」、「介護」、「予防」という5つの要素が、利用者のニーズに応じて適切に組み合わせられ、入院、退院、在宅復帰を通じて切れ目なく一体的に必要なサービスが提供されるというものです。

院内にあつては「チーム医療」、地域においては「地域包括ケアシステム」、いずれも「連携」が鍵となります。その「連携」を担う機能と

して「地域医療連携室」があります。

本年9月、この機能の適切な発揮を目的として看護師1名を増員し組織強化を図ることにしました。これでMSW3名、入退院支援看護師2名、事務員1名の総勢6名の体制となりました。まずは諸要件を確認し、9月中に「入退院支援加算1」の届出を行いましたと考えています。

我々はこの「連携」の役割の大切さを常に忘れることなく、患者さん、家族、地域の人々に必要とされるよう、これからも努力していきたいと思っております。

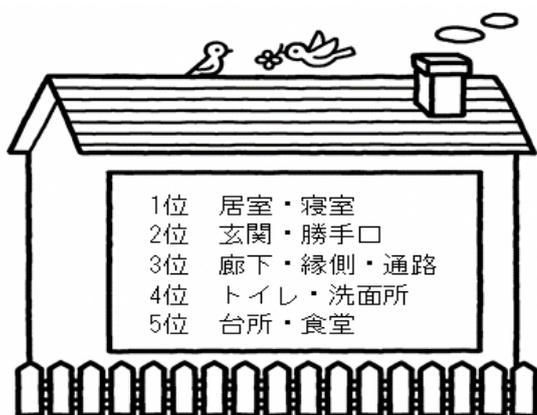
（地域医療連携室長 石井泰三）



特集「転倒にご用心」

—転倒の起こりやすい箇所は—

年齢とともに家の中や家の周りで、つまずいたり滑ったりしてヒヤッとした瞬間は誰にでもあるはずですが、時として転倒転落は骨折や頭部外傷と大きなケガにつながりやすく、それが原因で介護が必要な状態になっていくことがあります。東京消防庁の調査において、転倒の男女比率は74歳までは1:1と変わりありません。ところが、75歳以上では圧倒的に女性が多くなると言われています。また、自宅以外での転倒を含めると女性の場合は50代から急激に転倒件数が増加する傾向にあると報告されています。一方、男性の場合は家庭外での転倒が多く発生しています。



令和2年、東京消防庁管内の調査によると自宅等居住場所における転倒の発生場所の上位5つは左の表になります。全体の約68%が1位の『居室・寝室』でした。

当院でも転倒が要因で入院となる患者さまは少なくはありません。回復期リハビリテーション病棟に入院された患者さまのデータに基づいて調査を行いました。

調査期間：2021年4月1日～2022年3月31日

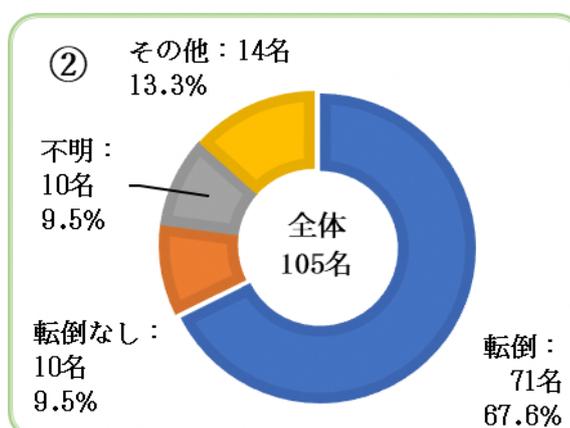
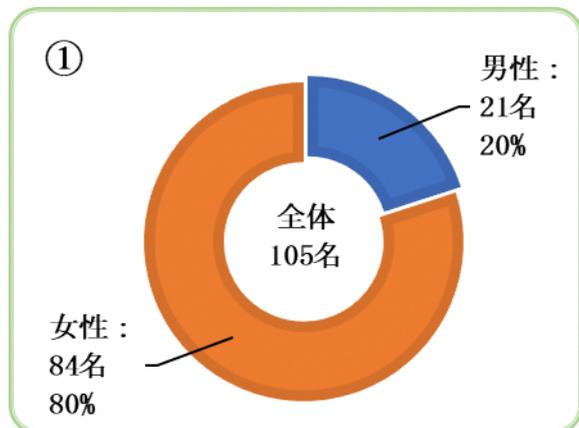
調査対象：回復期リハビリ病棟を退院した運動器疾患の患者

患者数：105名

① 運動器疾患の男女比

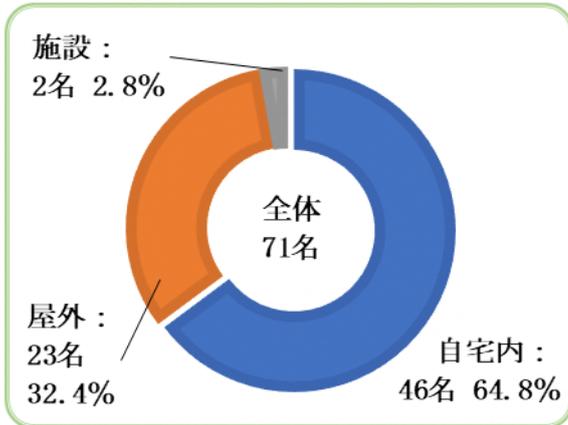
運動器疾患とは・・・「運動器」とは、歩く、座る、立ち上がるといった自分の意思で行う運動を担当する筋肉・関節・骨・腱・靭帯・神経などの組織や器官、ここに障害が起きるのが「運動器疾患」です。

② 受傷要因

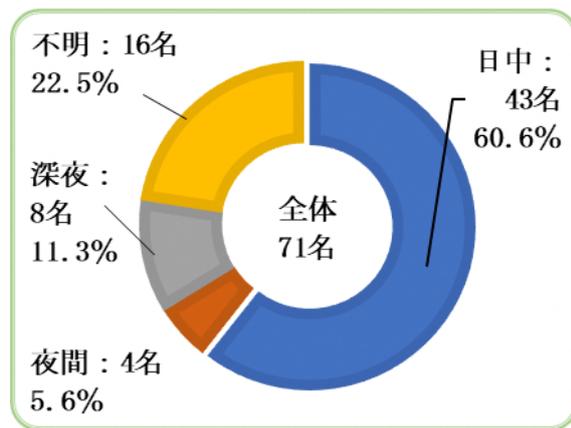


転倒が要因で入院となった患者さまの男女比は71名中、男性は16名で32.5%に対して圧倒的に多かったのは女性で55名と77.5%でした。また、その年齢の93%は後期高齢者（75歳以上）でした。

③転倒場所



④転倒時間帯



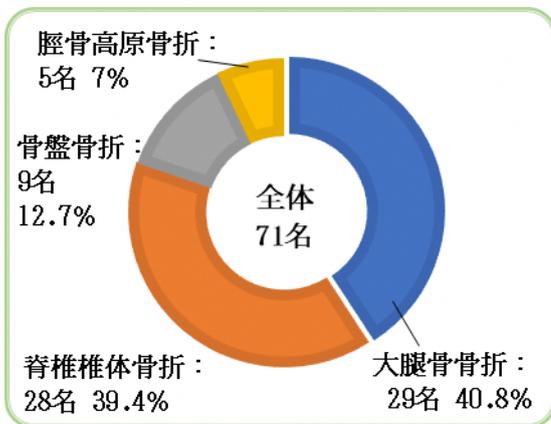
※日中：6時～18時、夜間：18時～22時、深夜：22時～6時で調査を行っています。

東京消防庁のデータでは、住宅等居住場所を屋内と屋外に分けると9割が屋内で転倒しているとの報告でした。当院では屋内で転倒した患者さまは64.8%でした。時間帯としては他の研究では70～80%は日中に発生していると言われていています。当院においても6割が日中に受傷したことが分かりました。

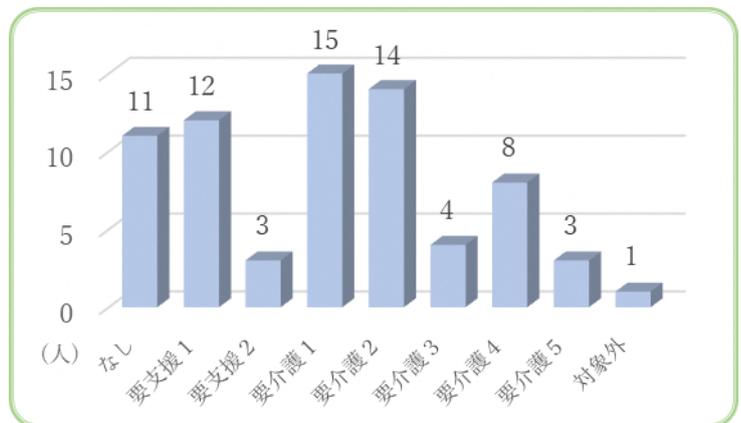
⑤自宅内の転倒発生場所

転倒発生場所	1位	2位	3位	4位			5位	不明
	居室	廊下	トイレ	玄関	台所	階段	洗面所	
入院した患者数	10	9	5	4	4	4	1	9

⑥受傷疾患の内訳



⑦要介護度別受傷患者数



厚生労働省「国民生活基礎調査（平成28年）」の発表によると、高齢者の介護が必要となる原因の第4位が「骨折・転倒」と報告されています。その中でも最も多い要因は大腿骨頸部骨折と言われていています。当院においても大腿骨骨折や脛骨高原骨折など足の骨折の割合は全体の47.8%を占めていました。また、要軽度介護度（要支援1.2、要介護1.2）の者の転倒が62%を占めていました。

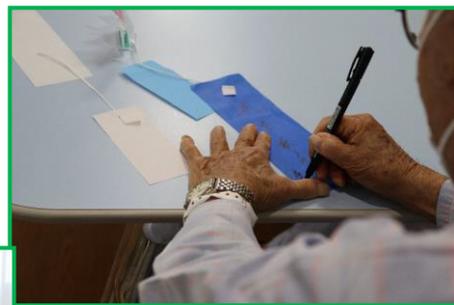
転倒の要因としては運動的な要因が着目されがちです。しかし、それ以外にも持病や服用している薬などの内的要因と室内での照明、階段、ドア・床の状態、屋外では玄関、庭・道路の障害物といった生活環境などの外的要因も関係していることが多くあります。ケガに至らなかった時点で転倒を引き起こす原因をもう一度振り返り、家族や専門の方と環境を整備することなども転倒予防に繋がると思います。これからも安心・安全な暮らしが提案できるよう努めて参りますのでよろしくお願いいたします。

(リハビリテーション科（運動器認定理学療法士）田中志穂)

西病棟 回りハカフェあるばむ

夏の日の思い出

七夕
7月27日(水曜日)



夏祭り
8月31日(水曜日)



パワハラ研修報告

ーリスペクトしあえる職場へー

令和2年6月1日から、パワーハラスメントの防止対策が義務付けられています。併せて職場におけるセクシャルハラスメント、妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメントの防止対策も強化されています。これらの状況を鑑み、併せて病院機能評価の受審準備をきっかけに業務点検を実施、本年1月1日から就業規程の一部改正を行うとともに「瀬戸内市病院事業職員ハラスメント防止規程」を制定しました。また、これらが実効あるハラスメント対策となるよう、病院長が院内に「ハラスメント行為撲滅の徹底について」のメッセージを発出。それを受けた形で、院内教育委員会として院内研修を3回(6月22日(水)、7月13日(水)、同20日(水))実施する計画としました。これまでも2、3年に1度、耳学問としてのパワハラ研修を行っていましたが、今回は、身近な想定事例を盛り込んだ形で、全員が参加するグループワーク形式で行われ、延72名が出席しました。講師は特定社会保険労務士の麓 一茂(ふもと かずしげ)先生にお願いしました。研修テーマは「リスペクトしあえる職場へ」隠れパワハラを撲滅する」。前半の座学では「パワハラって何?考えてみましょう(知っている方はおさらいです)」「パワハラ6類型と呼ばれています」「そこで今日は、知らないうち

にパワハラに加害者とならないために」の説明を受けました。引き続き事例を読んで、どこにパワハラが隠れているのか考えてみてください。という事で1枚のグループワークシートをいただき、各班で議論しました。3回とも異なった事例でしたが、共通している点は「今、わかりにくいパワハラが増えてい

ます」と言われたように、いわゆる身体的な攻撃、精神的な攻撃など比較的わかりやすいパワハラよりも、人間関係からの切り離し、過大な要求、過小な要求、個（プライバシー）の侵害など、わかりにくいものが増えているとのことでした。そして研修参加者全員が、何でも自由に発言できる心理的安全性の高い職場づくり、言葉の言い換えがパワハラを未然に防ぐことにつながることを、そして怒りの感情を予防しコント



ロールできるようにというアンガーマネジメントが大切ということを学びました。各事例を通じ、ハラスメントかどうかは自分の基準ではなく相手の判断であること、つまり日々の関係性が大事であることも学ぶことができました。
院内教育委員会
(医療安全担当看護師長) 野口佐登美

シリーズ眼科の検査(4)

眼底写真撮影は、眼底カメラを用いて目の奥の写真を撮る検査で、健診や人間ドックでもよく行われている、フラッシュがピカッと光る検査です。眼底写真には、目の奥にある網膜や視神経、血管が写っており、人間の体の中で直接血管を観察することのできる唯一の検査です。そのため、目の病気だけでなく、動脈硬化や糖尿病、高血圧などの内科的な病

気の診断にも役立ちます。

検査は痛みもなく、簡単にできますが、瞳孔(黒目)が小さいと目の中に光が入らないため、うまく写りません。そのため、健診や人間ドックで「判定困難」という結果になることもあります。それは何か病気があるということではなく、光が入らないために鮮明に写っていないということなので、気になるようであれば眼科の受診をお勧めします。
(視能訓練士 高下隆恵)

総合案内を飾る季節の花(晩夏編)



夏を代表する花たちが晩夏の総合案内を飾りました。花と花器の関係はお互いの長所を引き出し、称え合う関係が望ましいものと思われまます。今回は夏の花ということで色彩も艶やかで、ぱっと見でも派手さを感じます。それをしっかり支える備前焼の花器は、釉薬を一切使わず高温で焼き締められた茶褐色の堂々たる肌合い。活けられたひまわり、ヒヤクニチソウ、西洋フジバカマ、ルドベキアの原色に近い花卉の色合いと瑞々しい葉っぱの緑が花器とよくマッチし、土と切り離せない存在である花の美しさを引き立てています。花と花器、お互いのコラボが紡ぎだした一服の芸術です。
(広報委員会)

職員紹介 『庭』
コーナー



さいとう やすこ
主任介護福祉士 齊藤 泰子

主任介護福祉士の齊藤泰子です。瀬戸内市民病院に勤めて8年になりました。これまで瀬戸内市のことをあまり知りませんでした。患者さんとの会話の中で瀬戸内市内の地名などよくでてくるのですが、全くわからず話が続きなくなるときもありました。そのときは家に帰って地名や位置関係を調べていました。今ではだいぶ分かるようになっていますが、まだまだ知らないことが多いので患者さんとの会話の中で瀬戸内市の新しい発見を楽しみたいと思っています。これからも多くの患者さんとお話をさせていただき、もっと瀬戸内市のことを知りたいなと思っています。話をする事自体はあまり得意ではありませんが、患者さんとコミュニケーションを取って、一層寄り添った介護ができるように励んでいきたいと思っています。

★★ 次号の「庭」★★

看護師の中田安里紗さんです。ご期待ください。

漫筆 「見たり・言ったり・聞いたり」 (11)

皆様は、会議でときどき何の話をしているのかわからないやり取りや主張を目にすることがありませんか。そんなとき私が思い出すのは古典落語の演題にある「こんにやく問答」です。

こんにやく屋の六兵衛の口利きで空き寺のわか住職になった八五郎が、ある日、本物の僧に問答を吹っ掛けられた。経も読めない八五郎は六兵衛に相談。それならと一計を案じた六兵衛は八五郎に代わって、対応することに。僧がやってきた。いろいろ問答を仕掛けるが六兵衛は知らん顔、口も耳も閉ざしたまま。それを見た僧は六兵衛が「黙業」という修行をしているものと勘違いし、両手の人差し指と親指で小さい丸をこしらえ、パツと六兵衛の前に突き出した。それを見た六兵衛が両手で大きな丸を描くと僧は「ははー」と平伏した。次に僧は両手の指をパツと開くと六兵衛は片方の手をパツ。僧はまた平伏。次に僧が片手で3本指を出したので、六兵衛はアカン

ベエ。すると僧は恐縮して逃げ出してしまった。

八五郎が外で僧にどうなったのか尋ねると、最初の小さい丸は天地の間はという問い。六兵衛は両手の輪で大海の如しと答えた。十方世界はと問えば、五戒で保つと答えた。三尊の弥陀はと問うと、目の下を見ろと答えたからすつかり感服した、と言う。関心しながら八五郎が寺に帰ると六兵衛が本気で怒っている。なぜ怒っているのかと聞くと、「手真似で俺のこんにやくにケチをつけやがった。大きさはこればかりかというから、こんなに大きいと言ってやった。10丁でいくらだと聞くから5百だと言ってやったら、あの渋ちゃん」3百に負ける」と言うから俺はアカンベエ。」という内容です。何か食い違っている。落語はオチの芸術であるから面白いが、組織の会議はそうはいきません。誰もがプレゼンテーション能力の向上に努力したいものですね。
(経営企画室次長 馬場洋一)

編集委員の

ちよっと一服



～オリーブの木の下で～

『天高く馬肥ゆる秋』 空は澄み渡って晴れ、馬が食欲を増し、肥えてたくましくなる秋。食べ物がおいしい季節になりました。私にとっては一年中食べる物はおいしく肥ゆる季節ですが……。毎年この時期になるとスポーツの秋と意気込んでウォーキングを始めます。しかし、大体は冬の寒い時期や夏の暑い時期には挫折してしまいます。懐中電灯片手に、田んぼのザリガニや川の中の魚や亀を探しながら40分程度のウォーキングは疲れますが、とてもよい運動です。今年こそは挫折しないようにと決意しています。イノシシに出会わなければ……。(M)